

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年8月8日

【四半期会計期間】 第5期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

【会社名】 株式会社九州フィナンシャルグループ

【英訳名】 Kyushu Financial Group, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 笠原 慶久

【本店の所在の場所】 鹿児島市金生町6番6号  
(上記は登記上の本店所在地であり実際の本社業務は下記にて行っております。)  
熊本市中央区練兵町1番地

【電話番号】 096(326)5588

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経営企画部長 林田 達

【最寄りの連絡場所】 熊本市中央区紺屋町一丁目13番地5  
株式会社九州フィナンシャルグループ

【電話番号】 096(326)5588

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経営企画部長 林田 達

【縦覧に供する場所】 株式会社 東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人 福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		2018年度 第1四半期 連結累計期間	2019年度 第1四半期 連結累計期間	2018年度
		(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
経常収益	百万円	45,274	43,420	170,322
経常利益	百万円	11,026	11,297	33,717
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	7,631	7,395	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	-	-	22,202
四半期包括利益	百万円	10,793	5,503	-
包括利益	百万円	-	-	27,012
純資産額	百万円	639,941	654,509	652,317
総資産額	百万円	10,312,997	10,526,167	10,444,589
1株当たり四半期純利益	円	16.84	16.38	-
1株当たり当期純利益	円	-	-	49.12
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	円	-	-	-
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円	-	-	-
自己資本比率	%	6.1	6.1	6.2

(注) 1 当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2 「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」は、潜在株式がないため記載しておりません。

3 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

なお、2019年4月1日より株式会社肥後銀行及び株式会社鹿児島銀行において、銀行本体での信託業務の取り扱いを開始しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態及び経営成績に異常な変動等はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」に重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 〔財政状態〕

当第1四半期連結会計期間末における財政状態につきましては、総資産は貸出金の増加等により、前連結会計年度末比815億円増加し10兆5,261億円となり、純資産は前連結会計年度末比21億円増加し6,545億円となりました。

主要勘定の残高につきましては、預金は個人預金の増加等により、前連結会計年度末比1,541億円増加し8兆4,690億円、譲渡性預金は公共預金の増加等により、前連結会計年度末比2,163億円増加し4,690億円となりました。

貸出金は公共向けの増加等により、前連結会計年度末比1,968億円増加し7兆500億円となりました。

有価証券は償還及び売却等により国債が減少したこと等から、前連結会計年度末比119億円減少し2兆9億円となりました。

##### 〔経営成績〕

当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、経常収益は国債等債券売却益の減少によるその他業務収益の減少や株式等売却益の減少によるその他経常収益の減少等により、前年同期比18億53百万円減少し434億20百万円となりました。

一方、経常費用は、国債等債券売却損の減少によるその他業務費用の減少等により、前年同期比21億24百万円減少し321億23百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比2億70百万円増加し112億97百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比2億35百万円減少し73億95百万円となりました。

セグメント情報ごとの業績を示すと次のとおりであります。

#### a．銀行業

経常収益は前年同期比20億29百万円減少し366億35百万円となり、セグメント利益は前年同期比9億37百万円増加し128億25百万円となりました。

#### b．リース業

経常収益は前年同期比73百万円減少し73億67百万円となり、セグメント利益は前年同期比87百万円減少し1億51百万円となりました。

#### c．その他

経常収益は前年同期比80百万円減少し21億6百万円となり、セグメント利益は前年同期比18百万円減少し1億92百万円となりました。

## 国内・国際業務部門別収支

当第1四半期連結累計期間の資金運用収支は前年同期比8億97百万円減少して225億44百万円、信託報酬は前年同期比8百万円増加して8百万円、役務取引等収支は前年同期比3億32百万円減少して40億69百万円、特定取引収支は前年同期比9百万円減少して1億46百万円、その他業務収支は前年同期比20億51百万円増加して28億75百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	22,041	1,401	-	23,442
	当第1四半期連結累計期間	20,821	1,723	-	22,544
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	22,857	2,378	8	25,227
	当第1四半期連結累計期間	21,908	3,242	13	25,138
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	816	976	8	1,785
	当第1四半期連結累計期間	1,087	1,519	13	2,593
信託報酬	前第1四半期連結累計期間	-	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	8	-	-	8
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	4,407	6	-	4,401
	当第1四半期連結累計期間	4,079	10	-	4,069
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	5,292	35	-	5,328
	当第1四半期連結累計期間	5,288	29	-	5,317
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	884	42	-	927
	当第1四半期連結累計期間	1,208	39	-	1,248
特定取引収支	前第1四半期連結累計期間	155	0	-	155
	当第1四半期連結累計期間	28	118	-	146
うち特定取引収益	前第1四半期連結累計期間	155	0	-	155
	当第1四半期連結累計期間	28	118	-	146
うち特定取引費用	前第1四半期連結累計期間	-	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-	-
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	2,132	1,307	-	824
	当第1四半期連結累計期間	2,309	566	-	2,875
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	10,374	279	-	10,654
	当第1四半期連結累計期間	9,048	794	-	9,843
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	8,242	1,587	-	9,830
	当第1四半期連結累計期間	6,739	227	-	6,967

- (注) 1 「国内業務部門」は当社及び連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。
- 2 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(前第1四半期連結累計期間1百万円、当第1四半期連結累計期間2百万円)を控除して表示しております。
- 3 相殺消去額は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息額であります。

## 国内・国際業務部門別役務取引の状況

役務取引等収益は、前年同期比10百万円減少して53億17百万円となりました。

役務取引等費用は、前年同期比3億21百万円増加して12億48百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	5,292	35	5,328
	当第1四半期連結累計期間	5,288	29	5,317
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	1,823	0	1,823
	当第1四半期連結累計期間	1,897	0	1,897
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	1,818	32	1,850
	当第1四半期連結累計期間	1,791	28	1,820
うち信託関連業務	前第1四半期連結累計期間	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	366	-	366
	当第1四半期連結累計期間	308	-	308
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	142	-	142
	当第1四半期連結累計期間	140	-	140
うち保護預り・貸金庫業務	前第1四半期連結累計期間	73	-	73
	当第1四半期連結累計期間	72	-	72
うち保証業務	前第1四半期連結累計期間	120	0	120
	当第1四半期連結累計期間	111	0	111
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	884	42	927
	当第1四半期連結累計期間	1,208	39	1,248
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	424	37	461
	当第1四半期連結累計期間	425	37	462

(注) 「国内業務部門」は連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。

## 国内・国際業務部門特定取引の状況

特定取引収益は、前年同期比9百万円減少して1億46百万円となりました。

特定取引費用は、前期及び当期ともに該当ありません。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
特定取引収益	前第1四半期連結累計期間	155	0	155
	当第1四半期連結累計期間	28	118	146
うち商品有価証券 収益	前第1四半期連結累計期間	155	-	155
	当第1四半期連結累計期間	28	118	146
うち特定取引 有価証券収益	前第1四半期連結累計期間	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-
うち特定金融 派生商品収益	前第1四半期連結累計期間	-	0	0
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-
うちその他の 特定取引収益	前第1四半期連結累計期間	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-
特定取引費用	前第1四半期連結累計期間	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-
うち商品有価証券 費用	前第1四半期連結累計期間	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-
うち特定取引 有価証券費用	前第1四半期連結累計期間	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-
うち特定金融 派生商品費用	前第1四半期連結累計期間	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-
うちその他の 特定取引費用	前第1四半期連結累計期間	-	-	-
	当第1四半期連結累計期間	-	-	-

(注) 1 「国内業務部門」は連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は連結子会社の外貨建取引であります。

2 内訳科目はそれぞれの収益と費用を相殺し、収益が上回った場合には収益欄に、費用が上回った場合には費用欄に、上回った純額を計上しております。

## 国内・国際業務部門別預金残高の状況

## 預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	8,320,959	15,858	8,336,817
	当第1四半期連結会計期間	8,450,533	18,490	8,469,023
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	5,291,374	-	5,291,374
	当第1四半期連結会計期間	5,469,665	-	5,469,665
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	3,008,928	-	3,008,928
	当第1四半期連結会計期間	2,956,107	-	2,956,107
うちその他	前第1四半期連結会計期間	20,657	15,858	36,515
	当第1四半期連結会計期間	24,760	18,490	43,250
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	428,777	-	428,777
	当第1四半期連結会計期間	469,083	-	469,083
総合計	前第1四半期連結会計期間	8,749,736	15,858	8,765,595
	当第1四半期連結会計期間	8,919,617	18,490	8,938,107

(注) 1 「国内業務部門」は連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。

2 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

3 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況  
業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	6,588,572	100.00	7,050,031	100.00
製造業	421,480	6.40	436,115	6.19
農業、林業	77,978	1.18	83,335	1.18
漁業	17,430	0.26	18,589	0.26
鉱業、採石業、砂利採取業	7,914	0.12	7,324	0.10
建設業	147,355	2.24	148,130	2.10
電気・ガス・熱供給・水道業	188,975	2.87	201,693	2.86
情報通信業	64,221	0.97	69,359	0.98
運輸業、郵便業	184,315	2.80	180,841	2.57
卸売業、小売業	600,263	9.11	605,709	8.59
金融業、保険業	259,869	3.94	271,278	3.85
不動産業、物品賃貸業	805,014	12.22	869,305	12.33
各種サービス業	720,773	10.94	746,384	10.59
政府・地方公共団体	1,127,887	17.12	1,276,370	18.11
その他	1,965,093	29.83	2,135,593	30.29
特別国際金融取引勘定分	-	-	-	-
政府等	-	-	-	-
金融機関	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合計	6,588,572	-	7,050,031	-

(注) 「国内」とは、連結子会社であります。

(2) 経営方針・経営戦略等若しくは指標等

当第1四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等若しくは指標等について重要な変更等はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

なお、当社の子会社である株式会社肥後銀行は2019年7月9日開催の取締役会において、JR九州フィナンシャルマネジメント株式会社の株式の90%を九州旅客鉄道株式会社より取得することを決議し、2019年8月5日付で株式譲渡契約を締結しております。

詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(重要な後発事象)」をご参照ください。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	463,375,978	463,375,978	東京証券取引所 市場第一部 福岡証券取引所	株主としての権利内容に 制限のない、標準となる 株式。 単元株式数は100株。
計	463,375,978	463,375,978	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年6月30日	-	463,375	-	36,000	-	9,000

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 11,862,500	-	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。 単元株式数は100株。
完全議決権株式(その他)	普通株式 451,162,100	4,511,621	同上
単元未満株式	普通株式 351,378	-	同上
発行済株式総数	463,375,978	-	-
総株主の議決権	-	4,511,621	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,300株含まれております。また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権が13個含まれております。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己保有株式が26株含まれております。

## 【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 当社	鹿児島市金生町6番6号	11,862,500	-	11,862,500	2.56
計	-	11,862,500	-	11,862,500	2.56

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

- 1 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(1982年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)及び第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	1,211,471	1,033,140
コールローン及び買入手形	314	60,302
買入金銭債権	10,557	9,607
特定取引資産	1,183	2,216
金銭の信託	18,621	17,643
有価証券	2,012,855	2,000,953
貸出金	<sup>1</sup> 6,853,138	<sup>1</sup> 7,050,031
外国為替	12,419	8,871
リース債権及びリース投資資産	52,606	52,689
その他資産	191,314	209,421
有形固定資産	98,306	100,877
無形固定資産	9,317	9,175
退職給付に係る資産	5,857	6,143
繰延税金資産	972	979
支払承諾見返	33,893	32,304
貸倒引当金	68,241	68,188
資産の部合計	10,444,589	10,526,167
<b>負債の部</b>		
預金	8,314,830	8,469,023
譲渡性預金	252,727	469,083
売現先勘定	207,630	224,835
債券貸借取引受入担保金	479,347	226,736
借入金	402,402	344,520
外国為替	172	312
信託勘定借	-	590
その他負債	81,540	85,454
退職給付に係る負債	2,785	2,688
睡眠預金払戻損失引当金	2,267	2,219
偶発損失引当金	484	475
特別法上の引当金	0	0
繰延税金負債	10,114	9,337
再評価に係る繰延税金負債	4,076	4,076
支払承諾	33,893	32,304
負債の部合計	9,792,272	9,871,657

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
資本金	36,000	36,000
資本剰余金	198,362	199,075
利益剰余金	366,087	370,774
自己株式	5,270	5,270
株主資本合計	595,178	600,578
その他有価証券評価差額金	58,987	65,232
繰延ヘッジ損益	7,915	16,233
土地再評価差額金	5,855	5,855
退職給付に係る調整累計額	3,575	3,427
その他の包括利益累計額合計	53,350	51,427
非支配株主持分	3,788	2,503
純資産の部合計	652,317	654,509
負債及び純資産の部合計	10,444,589	10,526,167

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
経常収益	45,274	43,420
資金運用収益	25,227	25,138
(うち貸出金利息)	17,233	17,440
(うち有価証券利息配当金)	7,899	7,593
信託報酬	-	8
役務取引等収益	5,328	5,317
特定取引収益	155	146
その他業務収益	10,654	9,843
その他経常収益	1 3,908	1 2,965
経常費用	34,248	32,123
資金調達費用	1,786	2,596
(うち預金利息)	257	201
役務取引等費用	927	1,248
その他業務費用	9,830	6,967
営業経費	19,216	18,834
その他経常費用	2,487	2,477
経常利益	11,026	11,297
特別利益	1	0
固定資産処分益	1	0
その他の特別利益	-	0
特別損失	2	42
固定資産処分損	2	42
その他の特別損失	0	-
税金等調整前四半期純利益	11,025	11,254
法人税、住民税及び事業税	3,727	3,542
法人税等調整額	399	290
法人税等合計	3,328	3,832
四半期純利益	7,697	7,422
非支配株主に帰属する四半期純利益	65	26
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,631	7,395

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	7,697	7,422
その他の包括利益	3,096	1,918
その他有価証券評価差額金	978	6,250
繰延ヘッジ損益	1,907	8,317
退職給付に係る調整額	210	147
四半期包括利益	10,793	5,503
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,716	5,472
非支配株主に係る四半期包括利益	77	31

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
破綻先債権額	3,098百万円	3,338百万円
延滞債権額	81,465百万円	79,656百万円
3ヵ月以上延滞債権額	179百万円	605百万円
貸出条件緩和債権額	46,756百万円	46,253百万円
合計額	131,500百万円	129,855百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
株式等売却益	3,639百万円	2,469百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	1,817百万円	1,699百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月11日 取締役会	普通株式	2,727	6.00	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月14日 取締役会	普通株式	2,709	6.00	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業			リース業	計				
	肥後銀行	鹿児島銀行	小計						
経常収益									
外部顧客に対する 経常収益	21,737	16,138	37,876	7,009	44,886	1,127	46,014	739	45,274
セグメント間の内部 経常収益	117	671	789	431	1,220	1,058	2,278	2,278	-
計	21,854	16,810	38,665	7,441	46,106	2,186	48,293	3,018	45,274
セグメント利益	6,835	5,051	11,887	238	12,125	210	12,336	1,309	11,026

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等  
あります。3 外部顧客に対する経常収益の調整額 739百万円には、パーチェス法に伴う経常収益調整額 715百万円等が  
含まれております。4 セグメント利益の調整額 1,309百万円には、パーチェス法に伴う利益調整額 734百万円等が含まれており  
ます。

5 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業			リース業	計				
	肥後銀行	鹿児島銀行	小計						
経常収益									
外部顧客に対する 経常収益	20,272	15,544	35,816	6,965	42,782	1,075	43,857	436	43,420
セグメント間の内部 経常収益	128	691	819	402	1,221	1,031	2,252	2,252	-
計	20,400	16,235	36,635	7,367	44,003	2,106	46,109	2,688	43,420
セグメント利益	7,841	4,983	12,825	151	12,976	192	13,168	1,871	11,297

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
 2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等  
 あります。  
 3 外部顧客に対する経常収益の調整額 436百万円には、パーチェス法に伴う経常収益調整額 439百万円等が  
 含まれております。  
 4 セグメント利益の調整額 1,871百万円には、パーチェス法に伴う利益調整額 1,280百万円等が含まれて  
 おります。  
 5 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	円	16.84	16.38
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	7,631	7,395
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益	百万円	7,631	7,395
普通株式の期中平均株式数	千株	453,150	451,513

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載していません。

(重要な後発事象)

株式取得による会社等の買収

当社の子会社である株式会社肥後銀行は2019年7月9日開催の取締役会において、JR九州フィナンシャルマネジメント株式会社の株式の90%を九州旅客鉄道株式会社より取得することを決議し、2019年8月5日付で株式譲渡契約を締結しております。

1. 株式取得の目的

当社グループは、グループ経営理念及び目指す姿「お客様にとって九州トップの総合金融グループ」の実現に向け、2018年4月から「第2次グループ中期経営計画」をスタートしております。

本件株式取得により、中期経営計画の戦略の柱である「地域総合金融機能」の更なる高度化と「地域産業振興機能」の一層の強化に取り組み、より充実したソリューションをお客様に提供するとともに当社グループの経営基盤強化と企業価値の更なる向上に繋げるものであります。

2. 株式取得の相手先の名称

九州旅客鉄道株式会社

3. 株式取得する会社の名称、事業内容、規模

- |                |                                    |
|----------------|------------------------------------|
| (1) 名称 ( 1 )   | J R九州フィナンシャルマネジメント株式会社             |
| (2) 所在地        | 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号                  |
| (3) 代表者の役職・氏名  | 代表取締役社長 中野 量太                      |
| (4) 事業内容 ( 2 ) | 総合リース業、キャッシュマネジメントサービス、財務シェアードサービス |
| (5) 資本金        | 400百万円                             |
| (6) 設立年月日      | 1988年7月12日                         |

1 2019年10月2日の株式取得後に「JR九州FGリース株式会社」に変更する予定です。

2 2019年10月1日をもって総合リース業のみとなります。

4. 株式取得の時期

2019年10月2日(予定)

5. 取得する株式の数、取得後の持分比率

- |              |        |
|--------------|--------|
| (1) 取得する株式の数 | 7,200株 |
| (2) 取得後の持分比率 | 90%    |

## 2 【その他】

2019年5月14日開催の取締役会において、2019年3月31日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	2,709百万円
1株当たりの金額	6.00円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年6月24日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月6日

株式会社 九州フィナンシャルグループ  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹之内 高 司 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 平 木 達 也 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 窪 田 真 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社九州フィナンシャルグループの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社九州フィナンシャルグループ及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。